

令和2年度静内農業高等学校 出前教室実施概要

1 目的

農業と地域の特徴的な取り組みを学び、農業者等とのふれあいの中から農業高校生への農業への関心と就業意欲を高めることにより、将来の就職先の選択肢としてもらうことを目的とする。

2 テーマ

- (1) 静内農業高校においては、農産物や牛乳の原材料生産から加工、流通までを行っていることから、「地域の特産品」や「6次産業化」の取り組みをテーマとして、講義及び現地見学を行う。(食品科学科を対象)
- (2) 静内農業高校においては、日高管内の基幹産業である軽種馬生産・育成等の教育を行っていることから、「軽種馬の育成調教技術者の要請」や「育成調教施設の運営・管理」等をテーマとして、講義及び現地見学を行う。(生産科学科を対象)

3 開催時期

令和2年(2020年)10月23日(金)

4 対象

北海道静内農業高等学校 2年生生徒
(食品科学科 23名、生産科学科 24名)

5 主催

北海道日高振興局

6 内容

- (1) 食品科学科
 - 午前10時00分～ 講義 「買いたくなる商品づくりについて」
講師 北海道日高振興局
(提供 北海道日高乳業株式会社)
 - 午前11時00分～ 講義 「6次産業化の取組について」
講師 日高農業改良普及センター
主査(高付加価値化) 後藤 昌人
 - 午後1時30分～ 現地見学 ASUKAのチーズ工房(むかわ町汐見)
- (2) 生産科学科
 - 午前10時30分～ 講義 「軽種馬という職業の魅力とは？」
講師 北海道指導農業士 西村 和夫
 - 午後1時00分～ 現地見学 (公財)軽種馬育成調教センター(浦河町西舎)

<見学先の紹介>

公益財団法人 軽種馬育成調教センター（呼称：BTC）

- ・ 当センターは、平成3年に設立され、平成25年より公益財団法人として、
 - ①軽種馬の育成調教技術者の養成
 - ②育成調教施設の運営・管理
 - ③軽種馬の育成・調教技術の改善・普及という3つの事業を行っている。
- ・ 当センターの運営・管理している育成調教施設（通称：BTC調教場）の総面積は1,500ha。広大な草原を利用したグラス馬場や本格的な追い切りが可能な2,000mに及ぶ芝馬場をはじめ、トラック砂馬場、直線砂馬場、そして北海道の厳寒期にも調教を行うことができる屋内の直線ウッドチップ馬場、坂路ウッドチップ馬場等が整備され、若馬の鍛錬の場として世界に誇れる施設といわれている。

ASUKAのチーズ工房（毛利牧場内）

- ・ 当工房は、「牧場内で大切に育てた牛の新鮮な生乳のおいしさを多くの人に知ってもらいたい」との思いから、実家である毛利農場内に2009年にチーズ工房を開始。
- ・ 経営者である北川氏は、3代続く酪農家に生まれ、農業関係の高校、短大へ進学し、卒業後は十勝の牧場で3年間チーズの修行に励み、その後6次化の道を選択。
- ・ 商品としては、生乳の風味を活かしたフレッシュタイプのチーズをはじめ、特産品のししゃもを活用したチーズなどを、ひとつひとつ手造りで造りあげ販売している。